

野川護岸整備事業 事業説明会の議事要旨

東京都は、野川流域の水害から都民の命と暮らしを守るため、野川の護岸整備事業を行います。
つきましては、地域の皆様に事業説明会を開催させていただきました。
説明会当日の議事要旨を作成いたしましたので、ご覧ください。

1 開催概要

【第1回目】

| | |
|------|--------------------------------|
| 日時 | 令和5年6月26日（月曜日）19時00分～20時00分 |
| 場所 | 鎌田区民センター第一会議室（世田谷区鎌田3丁目35番地1号） |
| 参加人数 | 9名 |

【第2回目】

| | |
|------|-----------------------------|
| 日時 | 令和5年6月27日（火曜日）19時00分～20時00分 |
| 場所 | 鎌田南睦会会館（世田谷区鎌田2丁目11番地7号） |
| 参加人数 | 34名 |

2 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨）

【第1回目 6月26日 鎌田区民センター】

| ご質問・ご意見 | 都の回答 |
|--|--|
| 転落防止柵とアクリル板が両方設置されると景観の悪化が懸念される。アクリル板に転落防止柵の機能を兼用させることはできないのか。 | 基準及び構造上においては、アクリル板に転落防止柵の機能を兼用させることは可能である。 |
| 笠木は必要なのか。 | 利用者がアクリル板の上を触った際に、けがを防止する目的で設置している。 |
| アクリル板の厚み・耐圧・耐用年数を教えてほしい。 | 厚みは20mm～35mmである。アクリル板の高さに応じて厚みも変えている。 耐圧は、多摩川計画堤防高（A.P.+17.205）まで水位が上昇した時の静水圧に耐えられる構造としている。 耐用年数は50年である。 |
| 吉澤橋の既存のアクリル板は、設置から16年が経過しているとのことだが、流木や損傷の被害はあるのか。 | 現在（令和5年6月時点）までそのような被害はない。 |
| アクリル板の高さが一番高い吉澤橋の風圧と水圧に対してどのくらいまで耐えることができるのか。 | アクリル板の耐圧については、風圧3.0KN/m ² 、水圧9.8KN/m ² としている。 |

| | |
|--|---|
| 支柱をアンカーで固定するとのことだが、アンカーの耐荷重はどのように設計しているのか。 | 支柱の自重及びアクリル板と前述の水圧に耐えることができる構造としている。 |
| 野川から流れてくる水と多摩川からのバックウォーターの違いはなにか。 | 野川から流れてくる水は、多摩川の計画堤防高と比較すると4mくらい低い部分を流れている。そのため、水害が発生したときに影響が大きいのは多摩川からのバックウォーターである。 多摩川からのバックウォーターについては野川から流れてくる水と比較すると水の流れはなく、多摩川本川の水位上昇に合わせて野川の水位も上昇する。 |

【第2回目 6月27日 鎌田南睦会会館】

| ご質問・ご意見 | 都の回答 |
|---|---|
| アクリル板の強度はどのくらいあるのか。 耐用年数はどのくらいあるのか。 | 耐圧は、多摩川計画堤防高（A.P.+17.205）まで水位が上昇した時の静水圧に耐えられる構造としている。 耐用年数は50年である。 |
| アクリル板の接地面における漏水はどのように考えているか。 | アクリル板と護岸の間にできる隙間は、シール材（ゴムパッキン）で塞ぐ構造としている。 |
| アクリル板を設置すると降雨時に川へ水が排水しづらくなり、道路側に水が溜まってしまわないか。 | 現在、事業区間（約1.6km）の左右岸において現地調査を行い、水が溜まる恐れがある箇所を確認しているところである。水が溜まりやすい箇所については、フラップゲート等の排水施設の設置を検討している。 |
| アクリル板の高さは両岸とも同じ高さか。 | アクリル板の天端高は両岸とも同じ標高である。 |
| 工事に関するスケジュールについて説明は今後あるのか。 | 各工事の契約後に開催する工事説明会の際に説明予定である。 |

以上